



国語科学校課題研究（令和3年度）

『自分の思いや考えを持ち、

主体的に学び合う児童の育成』

～勝呂小国語科の研究を通して～

坂戸市勝呂小学校

目次

令和3年度 グランドデザイン

研究概要・研究のあしあと・勝呂小の取り組み・・・・・・・・1

【指導案集】

①第2学年3組国語科学習指導案・・・・・・・・2 ～ 4

②第6学年3組国語科学習指導案・・・・・・・・5 ～ 8

③第4学年3組国語科学習指導案・・・・・・・・9 ～ 14

成果と課題・・・・・・・・15

ご指導いただいた先生方・研究に携わった職員・・・・・・・・16

令和3年度 坂戸市立勝呂小学校 グランドデザイン

保護者の願い

- ・基礎学力の着実な定着
- ・規範意識の習得
- ・思いやりにあふれた学校

学校経営方針 「組織として機能する学校(one team)」

日本国憲法 教育基本法
 学習指導要領 県教育行政重点施策
 県教育振興基本計画 指導の重点努力点
 坂戸市教育重点施策

学校教育目標
 心豊かに美しく

めざす教師像

- ・「すべては児童のために」と思う、深い愛情に満ちた教師
- ・常に自己研鑽に励み、確かな指導力と使命感を備えた教師
- ・児童一人ひとりの良さを認め、褒め、伸ばすことができる教師
- ・保護者や地域と連携し、積極的に協働する教師
- ・ワークライフバランスを意識し、能率的に職務を遂行する教師

めざす学校像
 子供たち一人ひとりの
 瞳輝く元気な学校

- ・活気があり明るく楽しい学校
- ・優しさと思いやりにあふれた学校
- ・地域に愛され、信頼される学校

○かしこく (意欲的に学び、自分の考えを発表できる子)
 ○やさしく (思いやりと感謝の心を持つ子)
 ○たくましく (心も体も丈夫な子)

めざす児童像

探究心旺盛で
 進んで学習する子

思いやりと感謝の心を持ち、
 悪いことには毅然と
 立ち向かい合える子

自分の体をきたえ
 心身ともに健康な子

明るく元気にあいさつ
 や返事をする子

本年度の重点

◎最重点課題 学び合いとICTを活用した授業改善 基礎基本の徹底 家庭学習の充実	○確かな学力の育成	○豊かな心を育む	○信頼に満ちた教育
	○学校・家庭・地域の連携	○いじめ根絶	○事故ゼロ

保護者・PTA

幼稚園・保育園 中学校

関係機関

近隣地域

【研究概要】

研究主題 『自分の思いや考えを持ち、主体的に学び合う児童の育成』
～勝呂小国語科の研究を通して～

研究内容

勝呂小学校の児童は、『自分の思いを表現することが苦手』が多数おり、その課題解決に向け本年度から国語科を通じた学校課題研究に取り組んでいる。また、坂戸市の学び合い研修とも関連付けながら主体的に学び合う児童の育成を目指すとともに、若手教員の授業力向上、研究を進めてきた。

【研究のあしあと】

	研修日	研究内容
1	4月8日(木)	研究推進委員会 (今年度の研究の流れについて)
2	4月23日(金)	校内研修(研究主題の決定)
3	6月9日(水)	国語科主任授業 兼 初任者示範授業 大坪教諭
4	7月2日(金)	推薦者授業 田畑教諭
5	8月23日(月)	夏季研修 指導者 毛呂山町立光山小学校 校長 榎本 敦司 先生
6	10月11日(月)	校内研修(各ブロックでの指導案検討)
7	10月29日(金)	高学年ブロック研究授業 6年 吉田教諭
8	11月29日(月)	低学年ブロック研究授業 2年 小野教諭
9	1月31日(月)	中学年ブロック研究授業 兼 学び合い研修 大坪教諭 指導者 学びの共同体 根岸 康雄 先生
10	2月	校内研修(研究紀要作成)
11	3月	校内研修(次年度の方針)

【勝呂小学校の取り組み】

- ①埼玉県学力・学習状況調査の分析及び課題の共通理解
- ②コバトン問題集の活用
- ③音読チャレンジ
- ④国語科学習におけるまとめ方の共通理解
- ⑤国語科の授業を基にした学び合いの充実
(示範授業1回・研究授業3回・ベテランによる推薦者授業1回)
- ⑥夏季研修の実施

2 学年 3 組 国語科学習指導案

令和 3 年 11 月 29 日 (月) 第 5 校時

場 所 2 年 3 組 教室

児童数 男子 16 名 女子 10 名 計 26 名

指導者 小野 春美

1 単元名 (教材名)

自分とくらべて、かんそうを書こう

「わたしはおねえさん」 いしい むつみ 作 光村図書 2 下 赤とんぼ

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 教材観

本教材は、小学校学習指導要領 (思考力・判断力・表現力等) C 読むこと (1) オの「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を扱うこととする。作品の主人公は児童と同じ 2 年生のすみれちゃんである。すみれちゃんの行動や彼女を取り巻く事件と似たような経験をしている児童も多く、登場人物に自分を重ねて考えやすい。文章中には、すみれちゃんの気持ちを表す言葉や、はりきっている様子、葛藤している様子を表す言葉がたくさん出てくる。それらの言葉を物語の流れから追っていくことで、すみれちゃんの心の揺れを十分に感じさせたい。その上ですみれちゃんに自分と重ね合わせながら読ませるようにする。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、説明文「動物園のじゅうい」で自分の体験と結び付けて感想を述べる活動をしてきた。物語や説明文の単元では、初発の感想を書いたり、登場人物の気持ちを考えたり、あらすじを考えたりする活動を行ってきた。感想文や、気持ちを想像することには大分慣れてきたが、自分の体験と結び付けて書くことが難しい児童が多い。また、音読が好きだが、ただ文を読むだけで、気持ちを込めて読むことが難しい。一文読みにとはとても興味があり、喜んでやる児童が多い。

(3) 指導観

人物の行動から人物の心情を想像したうえで、もし自分だったらと思いを広げてみる。その際、自分の身の回りに起きた出来事を思い出し、物語の内容を結び付けることで、文学的な文章の解釈に関する基本的能力の基本である「叙述からの想像」と物語の楽しみ方の基本である「自分との関わりを考えながら読む」経験をさせる単元にしたい。登場人物の行動を中心に、「自分だったら・・・」と主体的に読む姿勢をもつことで、より一層自分に引き寄せた読み方ができるようにしたい。そして、物語と自分との経験を結び付けながら、場面の様子を想像して読む力や、自分の思いや考えをまとめる力を身に付けるようにしたい。

3 研究主題「自分の思いや考えをもち、主体的に学び合う児童の育成」との関わり

本単元では、同学年の女の子が主人公である。その為、初めて自分と重ねて読む経験をjする児童が主体的に取り組むことができると考えられる。すみれちゃんの行動や行動に着目して読むだけでなく、単元を通して「心に残ったこと」を書き出し、その根拠を自分の生活経験をもとにまとめることで、自分自身と比べながら読む力をつけていくことができる。また、感想を読み合うことで、自分と比べ、多様な感じ方があることに気づくこともできる。すみれちゃんと自分を比べる、自分と友達を比べることを通じて、比べて読む楽しさを味合わせていく。

4 単元の目標

- (1) 文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつことができる。(思考・判断・表現等)
- (2) 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。(知識・技能等)
- (3) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思考・判断・表現等)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(1) オ)	① 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C (1) エ) ② 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (1) オ)	① 積極的に文章と体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って物語の感想を書こうとしている。

6 指導と評価の計画【計画の詳細は省略】

7 本時の学習指導（本時 6/10 時）

(1) 本時の目標

登場人物の行動や会話について具体的に想像したり、自分と比べたりしながら読み、心に残ったことについて感想をもつことができる。（思考・判断・表現）

(2) 展開

時間	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆評価【評価方法】 ◎A 及び C 児童への具体的な支援
導入 5分	①音読チャレンジ ②前時までを振り返る。	○姿勢や口形、速さに気をつけて読む。 ○1～2 の場面の登場人物の行動や様子、気持ちを振り返る。
展開 35分	③本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて なぜ、「半分ぐらいなきそうでした。もう半分は、おこりそうでした。」の気持ちになったのか、考えよう。</div> ④P.56～P.63 の音読をする。 ⑤すみれの表情を想像させる。 ⑥すみれは、なぜ半分ぐらい泣きそうで、もう半分ぐらいは、おこりそうだったのか、理由が分かる部分にサイドラインを引く。 ⑦グループで話したことを全体で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◎A 及び C 児童への具体的な支援 A：一つの叙述だけではなく、いくつかの叙述から捉えられるようにする。 C：友達の考えを聞いて、自分の考えと近いと思うものにサイドラインを引く。</div> ⑧交流したこと全体に交流する	○課題を確認して、学習意欲を高める。 ○今までのすみれちゃんの気持ちを思い出しながら読むようにする。（一斉に読む。） ○表情カードを使って表現させる。 ○すみれは、泣いたのか、怒ったのか、を問うことで、すみれの心情の変化を考えさせる。 ○第4場面に注目しやすいので、今までやってきたところに注意が向くようにする。 ○叙述に基づいて考えられるようにする。 ○自分が線を引いたところと、他の人が線を引いたところを見比べる。 ○自分の意見を叙述に基づいて発表できるようにする。 ☆半分ぐらいなきそうで、もう半分は、おこりそうな気持ちを想像し、その理由をまとめることができる。 （思考・判断・表現）【教科書・発言】
まとめ 5分	⑨まとめ すみれちゃんへの手紙を書く。（ワークシートに記入する。） ⑩次時の見通しをもつ。	○今日の内容を振り返りながら、自分でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">すみれちゃんへ すみれちゃんは、泣きたいのか怒りたいのか分からないぐちゃぐちゃな気持ちだったね。そのわけは、りっぱなおねえさんになりたくて、がんばろうと思っていたからだよ。</div> ○次時は、「すみれちゃんは、もういちど、ノートをみました。じっと。ずっと。」の部分のすみれちゃんの気持ちを考えることを伝える。

第2年3組 自分とくらべて、かんそうを書こう「わたしはおねえさん」 研究協議会 記録

令和3年11月29日(月)
司会(五十嵐) 記録(小林)

○授業者反省(小野教諭)

それまでの場面から線を引けるか?

その場面付近から線を引きがち…

話し合いまだまだ未熟

線を引いたが、自信がなく、活発に話ができない

泣きたい、怒りたい…なんで?→かりんに絵を描かれたから

15人以上が優しいお姉さんになりたい、立派なお姉さんになりたい

○学年・ブロックから

語彙が少ない

元気…どうなったら元気?→答えられない

どこに線を引いたらいいのか分からない

主人公の気持ちを理解させるには?

音読いつから?読んでいても文字を追っているだけ

泣きたい、怒りたいの経験の乏しさ

物語の叙述の読み取りのしかた

○研究協議

具体的に想像したり、自分と比べたりしたらもっと深まる

音読させるタイミング

泣きたい、怒りたい…けど、そうしない葛藤→実体験

泣くときってどんなとき?怒りたいときってどんなとき?

やさしい、えらい、立派な…どんな気持ちが一番強かった?

いつもだったら怒っている…今日はなんで?

どうしてそこに線引いたの?

もう、かりんたら、もう

3・4年「叙述」、5・6年「描写」…学校で統一して「○ページに～書いてあるので～思いました」

感情を読み取るために、叙述に注目してサイドラインを

教科書のうしろの言葉の宝箱の活用、掲示物

表情カード→語彙の助けに

○指導講評

緊張…いつもの活発さ

音読、みんな教科書をもって、姿勢よく、声もよく出ていた

すみれの表情の掲示

復習、本時のところの区別

「自分だったら?」みんなはすみれです、すみれになった気持ちで読もう

今日の場面だけでは分からない…さっき復習したところにヒントがあります

すみれへの手紙、ペアで、グループで、相手をすみれと思って読んでみる

第4学年3組 国語科学習指導案

令和4年1月31日（月）第5校時

場 所 4年3組教室

児童数 男子14名 女子14名 計28名

指導者 大坪 三紗

1 単元名・教材名 言葉について考えよう 「つながりに気をつけよう」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 教材観

本単元では、小学校学習指導要領の「B書くこと」(エ)について扱う。ここでは、言葉の働きに気づくとともに、分かりやすく伝える方法を言葉の側面から考え、活用していく。具体的な内容を述べるのに長文を書く力が必要とされる中学年において、順に読んだときに違和感なく読める長文を読み手の立場から組み立てる力を養うことをねらいとしている。学習の中での違和感を解決しながら、言葉のつながりのきまりについて考えることのできる教材である。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、国語の授業に対して意欲的で、自分の考えを進んで発表できる児童が多い。また、読書が好きな児童も多く、休み時間や隙間時間に読書に親しんでいる。書く活動に関しては、多くの児童が自分の考えを文章にすることができる。しかし、物語の紹介文や要約文等、大事な部分を意識して書くことが難しく、だらだらと長文になってしまっているのが課題である。また、自分の考えを発表したり、考えたりすることが苦手な児童もいるため、これまでもペアやグループでの活動を通して、安心して自分の考えを伝える場を多くとるようにしてきた。そして、少しずつではあるが、自分の考えを話すことができるようになってきている。

(3) 指導観

本単元では、読みやすい構造の文を組み立てる活動を行う。これまでの「書くこと」の経験を振り返りつつ、自分が書いた文章の課題に気づかせ、問題意識をもたせていく。文章が長く複雑になることで、①主語と述語の対応がくずれる。②修飾の範囲が曖昧になる。③述語どうしの関係が分かりにくくなる。という問題が生じ、理解しにくい文章になりがちである。そこで、文章の分かりやすさを考えるうえで「つながり」に着目させる本単元での学習を、今後の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習へと生かす意欲をもたせたい。また、ペアやグループで意見を交わす中で、自分だけでは気づけない修正ポイントを発見し、楽しんで文章を書く技能を高められるようにしたい。

3 研究主題「自分の思いや考えをもち、主体的に学び合う児童の育成」との関わり

本単元では、教科書や教師の例題のどこに読みづらさや分かりにくさがあるか、まずは学習の導入時に一人ひとりがその文章と向き合う時間を位置づけたい。その後、ペアやグループで交流し、修正するポイントを明らかにしていく。どこを直せばいいのか、なかなか思いつかない児童もいると思われるので、グループで相談し、様々な考えに触れることでよりよい文章に練りなおしていく。最後に、全体の意見を比較検討することで分かりやすい文章にするポイントを明らかにする。また、文章を整えることを習慣化することで学習の定着を図る。

4 単元の目標

- (1) 主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。 ＜知識及び技能＞(1)カ
- (2) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。 ＜思考力、判断力、表現力等＞B(1)エ
- (3) 進んで主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、これまでの学習を生かして、つながりに気をつけて文章を書こうとする。 ＜学びに向かう力、人間性等＞

5 本単元における言語活動

つながりに気をつけて文章を書く。(関連：「B 書くこと」 言語活動例)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係を理解し、文を整えている。 ②一文の長さによる分かりやすさの違いに気づき、つなぎ言葉やこそあど言葉なども使って、文を分かりやすく書き直している。	①「書くこと」において、分かりやすく書くコツを意識して、例文を分かりやすい文章に整えている。	①言葉と言葉や、文と文のつながりに注意して、分かりやすい文章を書こうとしている。

7 指導と評価の計画

	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○今までの自分が書いてきた文章について振り返り、学習の見通しをもつ。 ○主語と述語、修飾語の関係について考える。 ○主語と述語を正しく対応させることについて理解する。	○自分の課題の把握 ○主語と述語、修飾語の意味 ○主語と述語の正しい対応	○主語や述語、修飾語の使い方と関係性を振り返り、使い方を確認できるようにする。 ○主語に対する述語の書き直し方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【知識・技能①】</p> <p>発言・ノート</p> <p>・ここでは、主語に対応した述語に書き直すことができているか確認する。</p> </div>
2	○修飾と被修飾の関係を考え、文章を意味の異なる2通りの文に直す。	○修飾と被修飾の関係	○読点を打ったり語順を入れ替えたりすることで意味がはっきりすることを、視覚的に示し、理解を促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>発言・ノート・観察</p> <p>・ここでは、修飾と被修飾の関係を考えたり、積極的にグループで意見交換をしたりして、意味の違う2通りの文を考えているか確認する。</p> </div>

3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○例文を比較し、どちらが分かりやすいかについて話し合う。 ○文の長さによって分かりやすさに違いがあることを確認する。 ○例題を分かりやすい文章に書き直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の比較 ○分かりやすく書くコツ ○分かりやすい文章の書き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい文章にするためには、一文を短くすること、適切なつなぎ言葉などを使うことを押さえる。 ○分かりやすくするために、主語を省略して一文にまとめていることを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【思考・判断・表現①】</p> <p>発言・ノート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、一文の長さに着目し、つなぎ言葉やこそあど言葉を使って、分かりやすい文章に整えようとしているか確認する。 </div>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすく書くコツを使って、文章を書き直す。 ○よりよい直し方についてグループで意見を出し合う。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすく書くコツの活用 ○文章の練り上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで話し合うことで、書き直すポイントを焦点化したり、互いの考えを補完し合ったりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【知識・技能②】</p> <p>発言・ノート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、既習事項を活用して、分かりやすい文章に書き直せているか確認する。 </div>

8 本時の学習指導（本時 3／4時）

(1) 本時の目標

接続語や指示語を活用し、相手や目的を意識した文章を整えることができる。

＜思考力、判断力、表現力等＞B(1)エ

(2) 評価規準

「書くこと」において、分かりやすく書くコツを意識して、例文を分かりやすい文章に整えている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 音読チャレンジを読む。	○音読の仕方	○はっきりと音読する。	1
2 前時の学習を振り返る。	○修飾と被修飾の関係	○前時までの学習内容を、掲示物等で振り返った上で、本時の学習につなげる。	3
3 例文①を読み、気づいた点を確認する。	○問題点の見つけ方	○拡大した例文を黒板に提示し、全体で音読することにより、読みにくさや分かりにくさが実感できるようにする。	4
4 例文②を読み、①との書き方の違いを考える。	○文章の比較	○例文①と②を比較する中で、②の文章の分かりやすさに気付けるよう、2つの文章の違いに着目して読み比べられるようにする。	5
5 本時の課題を確認する。	○学習課題の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">＜期待される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①は文が長く、わかりにくい。 ・②は文が短い。つなぎ言葉を使っている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">長い一文をどのように書き直せば、分かりやすくなるか考えよう。</p> </div>	2

<p>6 「分かりやすく書くコツ」を確認する。</p>	<p>○分かりやすい文章の特徴</p>	<p>○一文の長さやつなぎ言葉、こそあど言葉、省略等、分かりやすくするための工夫は様々であることを捉える。</p>	<p>5</p>
<p style="text-align: center;">＜期待される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一文はなるべく短くする。 ・つなぎ言葉を使う。・こそあど言葉を使う。 ・場合によっては言葉を省略する。 			
<p>7 グループごとに練習問題に挑戦する。</p>	<p>○接続語の使い方 ○文章の書き方</p>	<p>○「分かりやすく書くコツ」を毎回全て使うことが目的ではなく、文章に合わせて必要なものを選んでいけるよう支援する。</p>	<p>10</p>
<p style="text-align: center;">【思考・判断・表現】 発言・ノート・観察</p> <p>A: よりよい文章を作り上げるために、互いに意見を交わしながら文章を作り上げようとしている。</p> <p>B: グループの仲間と協力して、分かりやすく書くコツを意識した文章を考えている。</p> <p>＜「努力を要する」状況(C)への手立て＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の分かりにくい部分を一緒に確認し、「分かりやすく書くコツ」のどれが使えるか確認する。 			
<p>8 書き直した文章を見合う。</p>	<p>○発表の仕方 ○話の聞き方</p>	<p>○ただの発表会にならないように、相手が書き直した文章の良い点や改善点に触れながら文章の見直しができるようにする。</p>	<p>10</p>
<p>9 本時のまとめと振り返りをする。</p>	<p>○振り返りの仕方</p>	<p>○本時の学習を通して、長い1文の書き直し方が分かったか、「分かりやすく書くコツ」が使えたかなどを振り返る。</p>	<p>4</p>
<p style="text-align: center;">＜期待される児童の振り返り＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 文を分かりやすく書くためには、一文の長さを短くする。そして、つなぎ言葉やこそあど言葉を使うといい。 ㊧ ○○さんは、繰り返し出てきた言葉を、こそあど言葉に変えて書いていた。 ㊨ 今度文章を書く時には、「分かりやすく書くコツ」を意識して書けるようにしたい。 			
<p>10 次時の予告をする。</p>		<p>○次時の見通しがもてるようにする。</p>	<p>1</p>

第4年3組 言葉について考えよう「つながりに気をつけよう」

研究協議会 記録

令和4年1月31日(月)

司会(五十嵐) 記録(笹山)

1 授業者反省(大坪)

- ・単元のテーマは、主語と述語がおかしい文や修飾語が何を指しているか分からない文を修正することで、自分の書いた文を見直すことができるようにする。
- ・グループ活動(3人)を通して、ひとりでは気が付けない事にも気が付くことができる。(エキスパート班で考え、ジグソー班で伝え合う。)
- ・いつものグループ活動よりひとりひとり役割があるので必死に取り組んでいた。
- ・ジグソー班では話し合いがもっと広がるとよかった。

2 協議 グループ協議を10分間行い、その後ひとりひとり発表 視点「子供が子供・教師・教材とどのようにつながっていたか。」

○前半① 中村、小林直、大塚、高宮、菊池隆

- ・板書が色分けされていてわかりやすかった。
- ・問かけが上手だった。
- ・学習規律ができていたし、雰囲気落ち着いていた。
- ・男の子の影響力が大きかった。
- ・目を上げて授業を受ける姿勢が素晴らしかった。
- ・昨年と比べて子供の成長を感じた。
- ・導入の段階では分かっていない子もいたが、友達の意見を聞いて学んでいる子が多くいた。

○前半② 篠村、朝見、関口、清水

- ・分からない子に声をかけている子がいた。
- ・二年生で最初の例文のような文が見られるので、文を短くするように声をかけていきたい。
- ・よく発言するし、発言をしない子もぼーっとしている子がいなかった。
- ・友達が言っていることを全体に伝えることができる子がいた。
- ・何人ものこと意見交換ができることが良い。

○後半① 大島、田畑、須田、黒坂、和田

- ・先生の言葉かけで、学びを深めている子がいた。
- ・話し方や、指示が分かりやすかった。
- ・エキスパート班ではあまり発言できなかったけれど、ジグソー班で伝えることができていた。
- ・子供たちがどのようにやればよいかを分かっていたので安心して授業を受けていた。
- ・子供同士で「どうして?」「なんで?」と相手に聞き返すことができていた。

・相手の良いところをなかなか取り入れられない子がいたので、どう練り上げるかで変わる。

○後半② 小野、菊池直、笹山、吉田、高沢、曾志崎

- ・雰囲気暖かく、個性を大切にしていることがわかる。
- ・低位の子もよく活動していた。
- ・声かけが上手だった。
- ・こそあど言葉に変えてみて、よりよい表現を探している班があった。
- ・題材文が良く、子供が身近に感じる教材だった。
- ・先生も子どももはっきり話していたのでリモートでも聞き取りやすい。

3 授業者 より

もう一回エキスパート班に戻って読み返していたら学びが深まったかもしれない。

今回の3人組は話し合いが成り立つように組んでいたが、低位同士、高位同士の班をやってみてもよい。

エキスパート班では、気が付いたことを書き込み、ジグソー班では、他の班で気が付いたことを伝え合って練り上げをしていた。

4 指導講評（小林校長）

- ・つなぎ言葉、こそあど言葉、言葉を省略するなどをチェックできるようにして、数字で分かるようにする方法がある。
- ・このような言葉の学習でもジグソー法ができるということが分かった。
- ・どんな子供の言葉も受け入れる姿勢が良い。

第6学年3組 国語科学習指導案

令和3年10月29日(金) 第5校時

場所 6年3組教室

児童数 男子16名 女子21名 計37名

指導者 吉田 彩華

1 単元名・教材名 目的や条件に応じて、計画的に話し合おう 「みんなで楽しく過ごすために」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 教材観

本単元では、小学校学習指導要領の「A話すこと・聞くこと」(オ)について扱う。6年間最後の話し合いの学習として、「目的や条件に応じて計画的に話し合うこと」「主張・理由・根拠を明確にして自分の考えをまとめること」「問題点を明らかにしながら協働的に解決策を創出すること」を児童が学んでいく。ここでは、一度「仮の結論」を決めて試行することがポイントになる。試行することで新たな課題を見つけ、それを乗り越えるための話し合いを通してグループとしての考えを深めていく。

本教材「みんなで楽しく過ごすために」では、話し合いの仕方が示されており、学校の実情に応じて話題を工夫し、話し合いを進めていく。児童がグループで試行錯誤しながら、自分たちの力で解決したり実施したりすることができる話題がよいとされており、特別活動などと連携し、最高学年としての意識がもてるような行事や活動と組み合わせた話題、縦割り活動など自分とは違う立場を考慮するような話題が適していると考えられる。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、国語の学習に意欲的に取り組んでいる。発想力が豊かで、素直に考えや想いを表現する児童が多い。また、読書が好きな児童が多く、すきま時間に集中して本を読む姿も見られている。アンケートで国語の学習の中で好きなことを問うと、物語文を読むこと、文章や作文を書くこと、漢字を書いたり覚えたりすることが好きと答えた児童が過半数いた。その一方で、自分の考えを発表したり話したりすることが苦手と答えた児童も過半数いた。問いかけへの反応やつぶやきは多く、ペアでの対話や意見交換は活発に進むが、いざ自分の考えを全体で発表するとなるとかきこまってしまう、上手く話せない児童が多い。また、8割以上の児童が、人の考えや話を聞くことが好きと答えたが、最後まで聞く、自分の考えと比べながら聞くことなどについては、課題を抱えている児童も多い。

(3) 指導観

本単元では、計画的に話し合うために、司会や記録係、時間配分等も含めて、事前に進行計画を立てさせる。目的や条件に応じて話し合うために、事前に自分の意見を十分に整理する時間を設けることで、話し合いの内容が深まるようにしたい。話し合いは以下の形を基本として行う。

①1人ずつ意見を出し合う。主張・理由・根拠が明確になるように話す。

②互いの意見をより理解するために質問し合う。整理しながら記録をする。

③目的や条件に沿って意見を比べ合い、よりふさわしい案を選んだりつくったりして、仮の結論を決める。

④仮の結論を実際に試行してみて、問題点や改善点がないか確かめる。

⑤必要に応じてさらに話し合い、最終決定をする。

①②が考えを広げる話し合い、③④⑤が考えをまとめる話し合いに当たる。②の場面では、問題点を指摘するのではなく、理解を深めるために質問をし、互いの意見の良さを尊重してよりよい解決策につなげることが目的である。③⑤では、それぞれの意見の価値を認めつつ、類似点や相違点を比べ合い、グループとしてどれを「目的や条件に最もふさわしいと考えるか」を決めていく話し合いとなる。目的や条件は掲示し、常に意識しながら話し合いに臨めるよう支援したい。

3 研究主題「自分の思いや考えをもち、主体的に学び合う児童の育成」との関わり

本単元では、身近な話題について話し合う。児童から話題を集め、「勝呂小にあいさつの輪を広げよう」をテーマに話し合うことに決定した。自分たちの学年の良さといわれてきた「あいさつ」、毎年生活目標に掲げられ課題とされている「あいさつ」を話題にすることで、自分たちの身近なこととして主体的に考え取り組むことができると考えられる。また、最高学年としての思いをもち実践する場があることで、より具体的に解決策を考えることもできる。話し合っ解決策を考えたことで人の役に立ったり、誰かに喜んでもらったりするような活動につながるよう支援していく。

4 単元目標

(1) 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。〈知識及び技能〉(1)ア

(2) 情報と情報の関連づけのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができる。

〈知識及び技能〉(2)イ

(3) 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉A(1)オ

(4) 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉A(1)ア

(5) 言葉を通じて積極的に人と関わり、解決に向けて見通しをもって話し合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元における言語活動
目的や条件に応じて自分の考えを伝え、話し合う。(関連:「A 話すこと・聞くこと」言語活動例ア)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) 情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し、使っている。((2)イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通して積極的に人と関わり、目的や条件に応じて、よりよい解決に向けて見通しをもって話し合おうとしている。

7 本時の学習指導 (本時 3 / 6 時)

(1) 目標

○目的や条件に応じて計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等) A(1)オ

(2) 評価規準

○互いの立場を明確にして、進行計画に沿って話し合い、考えを広げたり、まとめたりしている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 今月の詩を読む。	○はっきりと声を出す。	○一緒に声を出す。	1
2 前時の学習を振り返る。	○話し合いの進め方 ○進行計画の立て方 ○自分の考えの整理の仕方	○前時までのノートや掲示物等を使って振り返る。	3
3 本時の課題をつかむ。	○学習課題の確認		2
目的や条件を合わせて、計画的に話し合おう。			
4 考えを「広げる」「まとめる」話し合いの方法を確認する。	○考えを広げる話し合いの仕方 ○考えをまとめる話し合いの仕方 ○記録の取り方	○考えを「広げる」→「まとめる」の流れを確認し、ポイントを掲示する。 ○P135の例示を参考に、記録の取り方について共通理解を促す。	4
5 グループごとに意見を出し合う。	○進行計画に沿った話し合いの仕方	○目的や条件に合わせて、主張と理由、根拠を明確にしながらか話し合えるよう支援する。	5
6 意見を比べ合い、仮の結論を決める。	○考えの類似点、相違点、改善点の整理の仕方	○もう一度目的や条件を確認させ、図や表に整理しながらまとめられるよう声をかける。	20
<p>【思考・判断・表現】 観察・発言・記述</p> <p>A: 相手の意見を取り入れながら、さらに良い解決策を出そうと自分の考えを深めている。</p> <p>B: 目的や条件に合わせて、理由や根拠をもとに話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。</p> <p>〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と相手の考えの類似点や相違点に着目させる。 話し合いの目的と条件を確認する。 			
7 グループで話し合ったことを、全体で共有する。	○話の聞き方 ○報告の仕方	○グループごとに話し合ったことを学級全体で共有することによって、考えをより深めていけるようにする。	5
8 本時のまとめと振り返りをする。	○振り返りの仕方	○本時の学習を通して、目的や条件に応じた話し合いの仕方が分かったか、進行計画に沿って話し合いを進めることができたかなどを振り返らせる。	5
9 次時の予告を聞く。			

1 授業者反省(吉田)

- ・コロナ禍のため、グループで話し合う機会があまりなかった上の授業だった。
- ・決定させなければいけない中、決定の仕方が教師も子どもも曖昧だった。
- ・話し合いが活発な班と、そうでない班が分かれていた。
- ・低位の子への支援ができなかった。
- ・評価をどのようにとるべきだったか疑問が残った。一つの班には1分くらいしかまわれず、たまたま見ている時の評価で良いのか。

2 協議 グループ協議を15分間行い、その後発表
視点「話し合いの方法として、効果的な内容はあったか」

○A グループ 中村 小林直 朝見 和田 高宮

- ・授業の事前準備がよくできていた。付箋を用意してあったことで安心して発言できていた。付箋は操作することもできるので便利。今後はジャムボードでやることもできる。
- ・子供たちが目的と条件を意識して話をするようになっていた。
- ・自分たちの生活の中で、実行できそうな意見ができたが、授業を意識して「ポスター」などの見栄えのする意見になってしまっていた。

○B グループ 大島 小野 吉田 曾志崎 村上

- ・付箋をつかっていたことについて。自分の意見をいう事が事前に分かっているので話し合いができていたので、付箋が効果的だった。利点・問題点・類似点・相違点をみつけるにも効果的。視覚的にうたえられる。
- ・題材が6年生に向いていた。普段から褒められていることが議題になっていた。

○C グループ 田畑 大塚 菊地隆 関口

- ・3年生でも付箋をつかって話し合いをしていくと、6年生につながっていく。(系統性)
- ・準備が整えられていたので活発な活動ができていた。
- ・発表の声が小さい。コロナの影響かもしれないが、発表の雛型があるとよいかもしい。
- ・評価について。タブレットがあるので、自分たちの話し合いを撮影して共有フォルダに入れておくと後から評価できる。

○D グループ 篠村 黒坂 清水 高沢 笹山

- ・指導に関する点について。学級活動との違いを考えて授業をつくった。話し合いのスキルを学ぶ授業になっていたため、国語科の授業としてよかった。
- ・記録のとり方
1組はノートで記録をとった。2組はワークシート。両クラスとも書く事に集中してしまっただ。付箋を用いた方法は効果的だが、まだ発展性があると思った。
- ・低学年「相談にのってもらおう」という話し合い活動があり、ペアやグループで話す活動を積み重ねていく。系統性を知ることが大切。
- ・一人ひとりが役割を意識して、上手に話し合いを進めていた。

○E グループ 大坪 須田 菊池直 五十嵐

- ・子供たちがグループでの発表ができていないなか、一人ひとりグループを盛り上げようとしていたことが評価できる。
- ・自分の意見を言っていて、役割をこなしていた。二つの意見を、組み合わせると効果的だというような、安心できるような声かけができていた。
- ・学年で単元をやっているなかで、子供たちが自分の意見を付箋に書いていたのが、良かった。記録をする人が大変になりすぎない。山岡さんが抜けた後に、話し合いが止まってしまったが、黒板をみて課題に戻って話し合いをすることができていた。まとまらなかったが、迷っていることを発表することができた。
- ・全く話さない子の支援をどうすればよいのか。

3 指導講評(小林校長) 別紙資料あり

- ・詩の暗唱からいい雰囲気です授業が始まりました。
 - ・ノートを綺麗に書いてありますよね?と言って既習事項を確認していた。日ごろのノート指導ができてい
- るからできること。

- ・あらかじめ自分の意見を整理していた。
- ・ひとりひとりの意見を尊重していた。尊重しているからこそ決められない班があった。人間関係がうまくいっていることが分かる。
- ・全体的には、よく手が挙がっていた。間違っても大丈夫だという安心感があるから意見を言える。
- ・短時間で全員の評価をすることは不可能なので、班を見回ったときの評価で仕方ない。動画に残しているものをつかってもよいが、時間がかかることなので、別の時間や他の単元にも評価を細かくとっていくほうが現実的である。
- ・達成状況を確認することができた。「またやりたいな」という声が聞こえた。
- ・子供たちが生き生きと活躍できた授業だった。

【成果と課題】

《学校全体での重点事項》

①学年の実態に応じた学習内容のまとめ方の共通理解

①ま 学んだよ（自分の成長） ・わかったこと・気づいたこと・
話し合いでできたこと

①な なるほど（友達のおかげ） ・新しい発見・まねしたいこと・
友達のあの言葉、あの考え

①び 広がった（今後～したい） ・今後の授業に向けて ・
新たに出た疑問や気づき

上記の合言葉をもとに学年の実態に応じた学習のまとめ方を
検討・共通理解を図った。

各学年、ブロックごとに協力をし、研究授業等を行うことができた。
また、ベテラン教諭の研究授業を見合うことで、国語の基礎基本の授
業形態を共有することができたことが今年度の成果である。

今後は、児童の書く力の向上と、より積極的に自分の意見を発言・
発信できるような方策を研究することが課題である。さらに、職員一
人一人の技量を高め、児童同士の学びを深められる授業づくりを目
指していきたい。



ご指導いただいた先生方

毛呂山町立光山小学校 校長 榎本 敦司 先生

学びの共同体 根岸 康雄 先生

研究に携わった職員

校長	小林 正明
教頭	畑生 百合子
教務主任	五十嵐 薫
1年1組	中村 珠己
1年2組	大島 祐花
2年1組	小林 直暉
2年2組	篠村 直美
2年3組	小野 春美
3年1組	田畑 明美
3年2組	菊地 直樹
3年3組	朝見 恭美子
4年1組	曾志崎 弥生
4年2組	大塚 七海
4年3組	◎大坪 三紗
5年1組	関口 哲
5年2組	笹山 香織
5年3組	高宮 佐和
6年1組	清水 岳
6年2組	須田 妃子
6年3組	吉田 彩華
なのはな	村上 かやの
たんぽぽ	和田 佐和
少人数指導	黒坂 弘

社会専科	菊地 隆志
音楽専科	高沢 めぐみ
養護教諭	田代 淳子
事務主幹	内田 隆
拠点校指導員	土田 勇人
初任者研修後補充	神田 美香子
さわやか相談員	田中 裕美
市費事務	長見 利恵
学校支援員	福壽 美歩
	菊池 孝志
	中村 寿美子
	宮崎 藍
読書活動支援員	竹腰 由美子
外国語活動支員	荻野 加奈
ALT	ケント チェン
校務支援員	下藪 直子
校務員	山本 愛子
	田村 あき江
育休等	田中 典子
	石間戸 彩香
	刈谷 優花
	福島 修嗣

◎・・・研究主任